

## 2024年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏名
人間健康学部 人間健康学科	教授	小島正憲
最終学歴	学位	専門分野
日本体育大学大学院体育研究科博士前期課程修了	修士	体育科教育（器械運動）

### I 教育活動

#### ○理念・目標・方針・計画（方法）

##### 【理念】

本学の教育理念（個を尊重した自由な校風の中で、他者から信頼される人格ならびに能力を有する自立した職業人を育成する）に沿って、学生を育てていく。

##### 【目標】

本学における「三つの言葉」（建学の精神：真に信頼して事を任せうるじんかくの育成）／校訓：真面目／教職員の心構え：子弟を教育するは、私事に非ず。天に事（つか）うるの職分なり）を念頭に置いた学生指導を行っていく。

##### 【方針】

本学の校訓である「真面目」を基盤として、他者から信頼されるような人材の育成を目指していく。特に、「主体性を持って行動できる学生」「様々な問題に対して、柔軟で的確に対応できる学生」を育てていく。

##### 【計画（方法）】

学生指導において「当たり前のできる（挨拶ができる、時間を守る、提出期限を守るなど）」を徹底する。加えて、学生の主体性を育てられるよう「アクティブラーニング型の授業方法（Think-pair-share、マイクロ・ディベート、多人数双方向型授業など）」を積極的に取り入れていく。

#### ○担当科目（前期・後期）

##### （前期）

技術トレーニング演習、人間健康学、専門スポーツ実習（器械運動）、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ、保健体育教育法Ⅰ

##### （後期）

教職実践演習（中・高）、専門スポーツ実習（器械運動）、バイオメカニクス、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、総合演習Ⅱ、卒業研究

#### ○教育方法の実践

昨年と同様に担当授業の演習及び実技全般において、コミュニケーション能力を向上させるためにグループワークを積極的に取り入れた。そのことで、学生同士のコミュニケーションが取れて授業にまとまりができ、教員側としても非常に授業運営しやすくなった。また、演習のことであるが「私の1週間の出来事」と題して、授業のはじめに一人3分間程度の自己プレゼンテーション（PREP法の採用）を実施し、人前で話すことを習慣化させるようにした。

#### ○作成した教科書・教材

昨年と同様に専門スポーツ実習（器械運動）及び教職実践演習において、授業の質を向上させるための評価シート（振り返りシート）を作成した。そのことで、授業の理解度が高まり、結果とし

て授業の質が向上したと感じている。次年度も継続していく。

#### ○自己評価

例年と同じく、授業全般の自己評価は納得のできる1年であったと思う。あくまでも自己評価にはなるが、学生の授業に取り組む姿勢や技などの出来映えも良く、反応も上々であったように感じている。加えて、専門スポーツ実習（器械運動）の学習評価アンケートの結果は平均4.7以上と非常に高い評価であった。

## II 研究活動

#### ○研究課題

（仮）中学校保健体育科教員による器械運動の実態：質問紙の調査結果から指導の在り方について

#### ○目標・計画

##### 【目標】

昨年度に達成できなかった、上記の学術論文を「原著論文」として国内の学会誌に投稿し、アクセプトされるよう励む。

##### 【計画】

研究日や夏季・春季休暇期間を利用して、研究活動を行う。加えて、年1本以上は何かしらの論文を投稿する。

#### ○2017年4月から2025年3月の研究業績（特許等を含む）

##### （著書）

- ・西尾敦史、大勝志津穂、尚爾華、小島正憲ほか『人間健康学』唯学書房、2023年、118～127頁

##### （学術論文）

- ・橘廣、長谷川望、小島正憲『「教職実践演習」を中心とした教職科目の検討：アクティブラーニングの視点から』東邦学誌第46巻第1号、2017年、103～118頁
- ・小島正憲『倒立姿勢の「腰が反る」動作を改善するための事例的研究ーマット運動からー』東邦学誌第46巻第2号、2017年、79～92頁
- ・小島正憲『保健体育科教員を対象にした器械運動の意識調査ーマット運動についてー』東邦学誌第49巻第1号、2020年、1～9頁
- ・小島正憲『ラジオ体操の実施効果における調査研究ー大学生を対象としてー』東邦学誌第49巻第2号、2020年、13～20頁
- ・MASANORI KOJIMA, YOSHINORI KINOMURA, KENJI KUZUHARA, Development of observational indicators for evaluating handstand posture in the mat exercise in physical education class: validity and reliability, Journal of Physical Education and Sport® (JPES), Vol 21 (Suppl. issue 3), Art 266 pp 2087 – 2096, July.2021 online ISSN: 2247 - 806X; p-ISSN: 2247 – 8051; ISSN - L = 2247 - 8051 © JPES
- ・小島正憲、小島 万弓、松尾 亜美『中学校保健体育科教員を対象にした器械運動授業の意識調査ー跳び箱運動ー』東邦学誌第50巻第2号、2021年、1～8頁
- ・小島正憲、小島 万弓、松尾 亜美『倒立静止における事例的研究』東邦学誌第51巻第1号、2022年、53～59頁
- ・小島正憲『ラジオ体操第二の運動効果における継続的調査ー大学生を対象としてー』東邦学誌第52巻第1号、2023年、1～7頁
- ・小島正憲『音楽聴取がスポーツパフォーマンスに与える情動変化ー授業時の大学生を対象として

一』東邦学誌第 52 巻第 1 号、2023 年、1～11 頁

- ・小島正憲、青山有理『ラジオ体操における実施効果の横断的研究—運動経験のある大学生を対象として—』東邦学誌第 53 巻第 2 号、2024 年、1～12 頁

(学会発表)

- ・小島正憲『マット運動における倒立の指導法について—新たな指導法「ヤジロベエの導入」—』第 65 回東海体育学会、2017 年、皇學館大学（三重県伊勢市）、口頭発表
- ・小島正憲、木野村嘉則、葛原憲治『初心者倒立における評価指標の提案—体育授業における倒立運動の評価を目指して—』第 68 回日本体育学会、2017 年、静岡大学静岡キャンパス、ポスター発表
- ・小島正憲『器械運動における保健体育教員の意識調査—中学校を対象にして—』第 33 回日本体操競技・器械運動学会大会、2019 年、駒澤大学駒沢キャンパス、一般発表

(特許)

なし

(その他)

なし

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

なし

○所属学会

日本体育学会（体育科教育、コーチング、バイオメカニクス）、スポーツ運動学会、スポーツパフォーマンス学会、日本体操競技・器械運動学会、日本幼児体育学会、日本教科教育学会

○自己評価

2024 年度の研究目標は、上記の学術論文を「原著論文」として国内の学会誌に投稿することであった。残念ながら、研究が思うように進まず論文の完成には至らなかったため、次年度に持ち越すことにする。しかしながら、他のテーマの学術論文を 1 本書くことができたので、最低限の課題は達成できたと考える。

### III 大学運営

○目標・計画

【目標】

今年度は新たに「学部執行部」に入る予定である。加えて、昨年度と同じく「教職支援センター運営委員会（副委員長）」「中高教職課程部会（委員長）」に配属される。新たな配属先及び現在の委員会と部会においても、求められることは中高保健体育教員の育成である。加えて、本学部における教員の養成は柱の一つであることを含めて、少しでも質の高い教員を育成できるよう、長としての役割を全うして、各会の担当者と協力しながら臨んでいく。

【計画】

教職を目指す学生には授業や特別講座の中で、教員の魅力を熱く伝えていく。そのことで、教職志望者の母数を増やすことと、質の高い教員を育成できるように努力する。

○学内委員等

人間健康学部（執行部）、教職支援センター運営委員会（副委員長）、人間健康学部部会（委員長）

○自己評価

上記の目標は概ね達成できたと考えているため、満足している。具体的に本部会では、委員長と

して会議を建設的及び効率的に運営することができた。また、特別講座においては学生に向けた教採対策（各学年の特講及びセミナー）を開催し、参加学生の教職に対する意識向上を図れたと考える。

#### IV 社会貢献

##### ○目標・計画

###### 【目標】

「東邦学園地域総合型スポーツクラブ（体操教室）」は今年で6年目を迎えられた。今後も長く続けられることと、地域の方に認められる教室になる目標を持って、積極的な活動をしていく。また、依頼があれば積極的に受けていく。

###### 【計画】

「東邦学園地域総合型スポーツクラブ（体操教室）」及びその他の対外的な活動に力を入れていき、依頼があれば積極的に受けていく。

##### ○学会活動等

なし

##### ○地域連携・社会貢献等

今年はコロナウィルスの影響はほとんどなく、予定通りに「東邦学園地域総合型スポーツクラブ（体操教室）」を開講することができた。

##### ○自己評価

昨年はコロナ禍のため、思うように活動することができなかった。しかしながら、今年は「東邦学園地域総合型スポーツクラブ（体操教室）」が順調に運営することができたことと、依頼された「教員に向けた器械運動指導の講習会及び子ども達に向けた体操教室（本庄小学校）」の講義ができ、良い指導をするできたと考えているので満足している。

#### V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

以下の内容について自己研鑽していく。

授業では学生にとって分かりやすく、興味を引く内容を提供することが求められる。そのために、最新の教育方法を学び、ICTを活用した授業設計を工夫し、学生の理解度を把握し、双方向の授業を意識することで、より効果的な学びを提供できるようにする。

学生指導においては、学業だけでなく、将来のキャリア形成や人間的成長のサポートも重要である。学生（教職希望者及びゼミ生）と積極的に対話し、一人ひとりの状況や悩みに寄り添う姿勢を持つよう意識して対応できるようにする。

委員会活動では、組織運営や意思決定のプロセスに関与する機会が多くなる。他の教職員と協力しながら、より良い教育環境を整えるために、マネジメントやファシリテーションのスキルを磨くよう関連書籍を読むようにする。

最後に、研究の分野では専門知識の深化と発展が不可欠であり、最新の論文や学会発表に触れる必要がある。そのためにも、分野は問わず昨今の研究のトレンドを把握できるよう多種の論文を読み、自身の研究に活かせるようにする。

これらの活動を充実させるためには、常に学び続ける姿勢を持ち、新たな知識やスキルの習得に努めることが大切である。今後も自己研鑽を重ね、教育・研究の質を高めていきたいと考えている。

## VI 総括

昨年と同様に今年も、「授業」「学生指導」「委員会」「地域連携」の校務及び「研究」をバランスよく行うことができたと考えている。しかしながら、研究面においては校務等による多忙を理由に、あまり満足のいく成果を収めることができなかった。そのため、今年度に執筆できなかった研究については効率的に進められるよう、より綿密な計画を立てて取り組んでいく。

以 上